

第4回（平成24年度）「KYOTO 地球環境の殿堂」表彰式 京都環境文化学術フォーラム「国際シンポジウム」開催概要

1 日時

平成24年2月17日（日）

■「KYOTO 地球環境の殿堂」表彰式 午後1時～2時15分

■京都環境文化学術フォーラム国際シンポジウム 午後2時30分～5時

2 場所

国立京都国際会館 メインホール

3 内容

（1）「KYOTO 地球環境の殿堂」表彰式

エイモリー・B・ロビンズ氏（ロッキーマウンテン研究所理事長／アメリカ合衆国）及びヴァンダナ・シヴァ氏（環境哲学者・物理学者／インド共和国）を第4回殿堂入り者として顕彰し、認定証及び記念品を授与しました。殿堂入り者からは記念スピーチを頂戴しました。



会長式辞



認定証の授与



記念品（風神雷神図（西陣織授与））



記念スピーチ

エイモリー・B・ロビンズ氏は、自然環境やエネルギーなど多くの問題に直面する現在、世界を変えるには常に希望をもって選択し続けることが重要である旨述べられました。そして世界中の人々が力を合わせ、地球上の資源が将来に残されるよう、情熱と忍耐を持って新しい世界を創っていく必要がある旨を述べられました。

(2) 国際シンポジウム

『「京都の知恵と文化を世界に～グローバルコモンズを目指して～」をテーマにシンポジウムを開催しました

ア 記念講演 ヴァンダナ・シヴァ氏



遺伝子を人為的に組み換えられた、薬剤への耐性の強い作物が増加することにより、人間身体に害が発生していることを危惧されていること、そして、未来の世代のために安全で豊かな作物を継承する必要があることを述べられました。

さらに、社会全体の共有財産である種子を守り、生物多様性や豊かな社会を創ることが必要である旨述べられました。

イ シンポジウム

「食のグローバル化から見る地球環境問題～伝統的・持続的農業、食と地域文化～」をテーマにシンポジウムを開催しました。

[パネリスト]

ヴァンダナ・シヴァ氏

パルビス・クーハフカン氏(前国際連合食糧農業機関(FAO)土地・水資源部長)

村田 吉弘氏(NPO 法人日本料理アカデミー一理事長、「菊乃井」本店主人)

[コーディネーター]

中村 桂子氏(JT 生命誌研究館館長)

ウ 内容



食と農業に焦点をあて、地域の自然や文化を大切にする生き方について討論しました。



シヴァ氏は、農業体験や調理実習という食育実践が非常に重要であり、子ども達に種子から作物が実ることを教えれば、その種子から育まれる豊かな食の世界を知ってもらえると述べられました。



村田氏は、日本の食文化を世界文化遺産として登録するために活動しており、日本料理のだしに代表される「うまみ」を生かした食文化を世界に広め、世界の人々に貢献することを希望する旨述べられました。また、伝統的に自然と共生してきた京都から自然と共に生きる暮らし方を取り戻していくことが望ましい旨述べられました。



クーハフカン氏は、地域で構築された農業システムは、将来世代が豊かに生活するための貴重な共有財産である旨述べられました。また、現代は自然環境と暮らしが分離しているが、今後は、自然と共に生きる暮らし方を考えていく必要がある旨述べられました。



最後に、中村氏は、国の文化を作っているのは、地域の食べ物、調理法、地域の風景であり、一人ひとりの取組みがグローバルなうねりにつながると総括され、パネルディスカッションは終了しました。